|  |
| --- |
| 令和2年度　今治市地域福祉計画審議会  第3回審議会・会議録 |

|  |
| --- |
| 日時：令和3年3月19日（金）13：00～13：45  場所：今治市役所第2別館11階　特別会議室3号  出席者：委員16名中14名出席  　　　　恒吉会長、長野副会長、上村委員、吉良委員、渡邉委員、臼谷委員、長岡委員、  龍田委員、藤野委員、御手洗委員、村上委員、原田委員、近藤委員、伊藤委員  　　　　事務局：石丸健康福祉部長、橋田福祉政策課長、菅社会福祉係長  　　　　受託事業者：リージョナルデザイン株式会社　小笠原 |

【議事進行】

議題：　１　パブリックコメントの結果について

２　第3期今治市地域福祉計画答申案について

３　各委員からの意見・感想

■　議題１　パブリックコメントの結果について

事務局：説明　パブリックコメントの結果について

恒吉会長： 只今、説明してもらいましたとおり、パブリックコメント0件ということでした。この件について、委員の皆さまから何かご意見、ご質問はありますか。

　　委員の皆さまからは特にないようですが、パブリックコメントを出しても、なかなか一般市民の方からはご意見を頂けないようです。このことが今後の地域福祉の課題と思います。一般の方が地域福祉計画の中身を見てみようかとは思われないようですが、一人でも多くの方が見てくれて意見が出るようになると、地域福祉への関心が高まってきたと言えると思います。

　　パブリックコメント0件ということで、市民の皆さま方からは特にご意見がなかったものと肯定的に捉えたいと思います。パブリックコメントの件については、これでよろしいでしょうか。

委員一同：意義なし。

■　議題2　第3期今治市地域福祉計画答申案について

事務局：資料の説明　第3期今治市地域福祉計画答申案について

恒吉会長：事務局より、第3期今治市地域福祉計画答申案について説明をしてもらいました。説明につきまして、ご意見、ご質問はありますか。

　　委員の皆さまからは特にないようですが、計画書については、今後、細かい修正が若干出て来るかと思います。細かい修正につきましては、私と事務局に任せていただくということでよろしいでしょうか。

委員一同：意義なし。

■　議題3　各委員からの意見・感想

恒吉会長：第3期の計画策定につきましては、今回が最後の会議となりますので、これまで計画策定にかかわる中で、それぞれの委員の皆さま方がお感じになられたこと、今後の地域福祉について重要だと思われることやご意見等を頂きたいと思います。それでは、上村委員からお願いします。

上村委員：地域福祉は本当に重要なことだと思います。高齢者の分野では、「在宅で、地域で見ましょう、地域で暮らしていけるようにしましょう。」ということが、現在、言われていますが、実際に叶うのかどうかというと発展途上のような気がします。地域福祉については、微力ながら、今後も学生と一緒に関わらせていただきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

恒吉会長：ありがとうございました。続きまして、渡邉委員お願いします。

渡邉委員：今年は新型コロナウイルスで人との接触が少なくなりましたが、そういう中で、これま　　で行ってきたことがさらに重要になるのではないかと思います。よく言われることですが、自助、互助、共助、公助によっていろいろなことが解決できるのではなかと思います。そういう意味でも、この計画はより重要なところに位置付けられると思います。

恒吉会長：ありがとうございました。続きまして、臼谷委員お願いします。

臼谷委員：今年度の新型コロナウイスの影響によって、今治市の人口がどのように変化しているのかが気になります。この計画は令和元年度の人口を前提につくっていますが、令和3年度以降、どのように変化してくのかを懸念しています。

　　高齢者やそのご家族と関わる中で「何かあっても、何もしてくれない。」という声をよく聞きますが、何かをしてもらうのではなく、自分たちが何をできるのかを一人ひとりが考えられるようになる仕組みづくりが大切だと思います。

「困った時には、ここに相談するんだよ。そうすると解決の糸口になるかもしれないよ。」といったように、小学生くらいの時から教えていくことが必要だと思います。今、私たちが関わっている高齢者やご家族の世代は、福祉についての知識が少ないのかなと感じます。若いうちから、もう少し福祉についていろいろなことを学んでいただきたいと思います。

恒吉会長：ありがとうございました。続きまして、長岡委員お願いします。

長岡委員：私たちで運営しております今治市地域包括支援センター日吉・近見は平成25年にスタートして、主に高齢者の総合相談窓口として機能しています。高齢者虐待や身寄りのない方に関する問題、すなわち権利擁護に関する問題を抱えておられる方がびっくりするくらい多くいます。

私たちは、このような問題に四苦八苦しながら対応しておりますが、この地域福祉計画の中にもありますように、各機関との連携というのがものすごく重要だと痛感しております。今回の地域福祉計画に基づいて、私たちも一生懸命やっていきますので、皆様方のご協力もよろしくお願いいたします。

恒吉会長：ありがとうございました。続きまして、龍田委員お願いします。

龍田委員：すごく良い計画が立てられたと思います。私は子どもの分野に携わっていますが、今年1年間は、新型コロナウイルスの影響で、子どもたちと地域の交流等ができませんでした。

この計画書にあるように、地域とのつながりの中で「みつける」「つなげる」「支え合う」はすごく良いことだと思いますが、園の保護者の方や地域のお年寄りたちを見ても、個人主義の方がとても多く、このような状況の中で「みつける」「つなげる」「支え合う」を実行していくことがとても大変なことではないかと思います。何かが起きたときには、自助と共助、公助が大切になると思いますが、その前に人と人とのつながりを大切にする社会にしていかないといけないと思います。

恒吉会長：ありがとうございました。続きまして、藤野委員お願いします。

藤野委員：地域のつながりの希薄化と言われておりますが、生活様式の変化が大きな要因だと思います。車社会の進展で、一戸建ての家でも玄関から車で出て、玄関へ車で帰って来るということになっており、昔の向こう三軒両隣の関係が崩れております。災害が起こった時にも、隣の生活実態が分からないという状況ではないかと思います。平素より、いかに近所づきあいをつくっていくかが課題だと思います。

恒吉会長：ありがとうございました。続きまして、御手洗委員お願いします。

御手洗委員：よく言われるように、近所づきあいが希薄になり連携がとりにくくなっていることが、一番の課題だと思います。

恒吉会長：ありがとうございました。続きまして、村上委員お願いします。

村上委員：皆さんがおっしゃられるように、地域のコミュニティが希薄化していることが気がかりです。個々の団体を見ると、立派なことをされている団体はたくさんあるのですが、横の連携が取れていません。他の団体の皆さんが何をされているのかが見えにくくなっていると思います。

　　地域において、若い方からお年寄りまでの縦のつながりも、団体同士の横のつながりも大切だともいますが、どちらもうまくつながっていないことが残念だと思います。

　　「みんなで参加しよう」「一人も取り残さない」ということは、この計画書にもありますが、とても大事なことだともいます。

恒吉会長：ありがとうございました。続きまして、原田委員お願いします。

原田委員：小中学校では、地域福祉の将来を担う子どもたちへの教育を行っています。週に1～2時間は総合的な学習の時間で、地域を大切に思うことや情報、環境などについての授業を行っており、その中で福祉についても必ず学んでいます。この中で、今回の審議会に出席している団体の方々にも、ゲストティーチャーとして学校に来ていただいたり、子どもたちが出て行って体験学習をするなどの取組をしております。

　　計画書に書かれているアンケート結果がこの計画のスタートとなっていると思いますが、個々の地域において、「この地域は今このようになっている。」「この地域はこんな特色がある。」「この地域ではこれからこのような取組を行う。」ということを、専門家の方が子どもたちに伝えてくれたら、大人社会でやっていこうとする計画が子どもたちにもつながっていくのではないかと思います。

自分の地域について知ることが大切だと思いますが、今治市全体ではなく、自分の校区や地区の単位で特色や取組について知ることで、地域を大切に思う心が育っていくと思います。

恒吉会長：ありがとうございました。続きまして、近藤委員お願いします。

近藤委員：今年は東日本大震災から10年、芸予地震から20年の節目の年となっております。私も東北の方に数回ボランティアに行きいろいろな方からお話を聞きましたが、亡くなった方の多くは地域から離れている方でした。「いつも、ここで寝ている。」「あそこには明かりがついている。」ということを、まわりの人が知らないので助けようがなかったそうです。

　　私の住んでいるところでも、地域の希薄化が進んでいます。私たちのように古くから住んでいる人間は「あの部屋では、あのおばあちゃんが寝ている。」「あそこではだれが寝ている。」ということが分かっていますが、新しく来た人には分かりません。このようなことが分からないと、支え合う生活はできないのではないかと思います。

　　私の住んでいるところには、大きなホテルが建っています。津波が来た時に住民がホテルに避難できるかなど、地域をどう支えてくれるのかということを話していますが、外から来た企業なのでなかなか難しいと思います。

　　東日本大震災から10年、芸予地震から20年の節目を機会として、もっと人と人が助け合う地域づくりをしないといけないのではないかと思います。

恒吉会長：ありがとうございました。続きまして、伊藤委員お願いします。

伊藤委員：新型コロナウイルス感染症による雇用への影響が深刻となっております。福祉と雇用は非常に密接につながっております。本計画にあるＳＤＧｓの目標8の「すべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する」は、まさしく我々労働行政の原点であり、信念であると考えております。今後とも、これらの目標に取り組んでいきたいと考えております。

恒吉会長：ありがとうございました。続きまして、長野副会長お願いします。

長野副会長：昨年、今年とコロナウイルスの影響を受けておりますが、私たちの社会で今一番必要なことは、助け合い、支え合いであると思います。地域のつながりやコミュニティを活発にしなければいけませんが、コロナウイルスの影響で少し停滞しているように感じます。人と一同に会することができないのが残念に思いますが、このような状況の中で、地域の支え合いをどう醸成していくかが課題だと思います。

　　今回の計画の中にもありますが、権利擁護の部分は高齢者、障がい者、子どものそれぞれで大きく違います。同じ虐待であっても、それぞれ分野がちがい、それぞれの縦割りがあります。これらについて、どう支え合いや助け合いができるのかが、社会福祉協議会としても課題であります。この計画では、権利擁護の部分は強化の方向ですので、よりいっそう大切になって来るのかと思います。

恒吉会長：ありがとうございました。続きまして、吉良委員お願いします。

吉良委員：今回のコロナ禍によって、いろいろなことがリセットされるのではないかと思います。アフターコロナに向かって、本当に必要なシステムをきちんと構築していくきっかけになったのではないでしょうか。少子化の問題は、私たち産婦人科医から見ると切迫した問題であり、人が少なくなるというのは街としての魅力がなくなっていくことだと思います。

少子化が進むと、市役所の仕事も機械化できるところは機械化して、濃淡をつけていかなくてはできなくなると思います。例えば、公民館などももっと活用して、地域のつながりや防災活動に活かしていくと良いと思います。今あるシステムをもっとうまく使うことが大切だと思います。これまでどおり、あれもやろう、これもやろうというのはマンパワーとして無理があると思います。

　　これから5年間の計画は素晴らしいと思いますが、定期的に集まって検証しないといけないと思います。なんとなく掛け声だけになってしまうのはさみしいと思います。個人としては、この地域にずっといるつもりですので、今後とも地域に貢献していきたいと思います。

恒吉会長：委員の皆さま方、ありがとうございました。やはり計画をつくって終わりではなく、いかに実行に移していくのか、それができているのかできていないのかの進捗管理が重要だと思います。

　　この1年間、新型コロナウイルスでいろいろなことが大きく変わりましたが、マイナス面だけではなく発想の転換といった点では考えさせられた1年だったと思います。例えば、会議などもオンラインで行い、慣れれば非常に便利だなと思いました。地域福祉においても、「外に出ましょう。」と言ってきましたが、オンラインを活用するなどして、外に出て来られない人へアプローチしていくことも発想の転換だと思います。家から出なくても、つながりをつくる方法があるかもしれないと思います。今回のコロナウイルスは何らかのきっかけを与えてくれたのかも知れません。

　　計画全体を通しまして、この計画を一人でも多くの住民の方々に目にしてもらう、中身を知ってもらうかが大事だと思います。その意味からして、特に「みつける」「つなげる」「支え合う」の基本視点について、何が一番大事かと考えると、情報の提供、情報の発信が最も大事なことだと思います。情報をきちんと提供することで、みんなが地域の課題を「みつける」ことや、さまざまな活動をしている人を知ることで「つながる」こと、様々な課題を知ることで「支え合う」ということにつながっていくと思います。地域福祉の推進には、情報の発信や提供がキーワードの一つになるのではないかと思います。

　　民生委員・児童委員さんたちやボランティア活動をしている方々をはじめとして、一生懸命頑張っておられるのに、その姿が見えません。見えるようにするためには、行っている活動をいかに見せるか、「見える化」を図っていくことが重要となります。

　　コロナウイルスの影響で、最初はマスクをつける人が少なかったのですが、つける人が多くなると、つけない自分が悪者のように感じ始めました。このように、地域の人がいろいろな活動を始めると、最初は「あの人たちは何をやっているのだろう」と思われます。しかし、まわりの人たちの多くが活動に参加し始めると、「自分も何かしないといけないのかな」という気持ちになり、地域の助け合いや支え合いをするのが当たり前のようになってきます。

　　マスクが見えやすく分かりやすいように、地域福祉もいろいろな活動が見えやすくなることで、多くの人が参加するようになると思います。これらのことから、情報発信と活動を見えやすくすることが、今後の地域福祉の推進に大きく関係してくると思います。

　　委員の皆さま方には、これで終わりではなくこの計画に関わった一員として、皆さまのそれぞれの立場でこの計画について情報発信を行っていただきたいと思います。

以上